

第18回安全工学会総会
2020年度・2021年度会長挨拶

三宅 淳巳

会長を仰せつかっております、横浜国立大学の三宅と申します。本日は第18回安全工学会総会にご出席いただき、誠にありがとうございます。先ほど事務局よりご説明ありましたように、委任状とご出席の方々に依りまして、本会は成立ということとなりました。

今回はハイブリッドでの開催となりました。社会情勢は未だに不透明の状態であります。しかしながら、学会としてのこれまでの活動、そして今後の事業計画等について、ご審議いただきたく存じますので、本日は何卒よろしくお願いいたします。

詳細については後程ご説明を申し上げますけれども、私が会長を仰せつかったのは2年前になります。先ほども武藤副会長とお話をさせていただきましたが、この2年間、総会あるいは理事会、それから各種の委員会活動、これらの多くはオンラインあるいはハイブリッドということで進めてまいりました。会員の皆様には非常にご不便をおかけしたと思います。本日ここでお詫びを申し上げる次第です。

また、学会の活動につきましても、いろいろなイベント、各種セミナー、研究発表会と、これもオンラインで行うということが非常に多かったと思います。しかしながら、新たな学会の運営につきましては、この2年間、非常に多くの経験あるいは知見が得られたと考えています。これによりまして、今後の学会運営へ有効に活用し得る体制の構築ができつつあると確信をしています。会員の皆様、それから学会役員の皆様、並びに事務局の皆さんのこれまでのご尽力に感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

今後につきましては、これまでに得られた知見や経験をもとにいたしまして、まさにニューノーマルと言われている新たな学会運営に向けて、一步一步進んでいきたいと思っております。また、会員や関係者の皆様にご満足いただけるよう、更なる活動の展開を考えていきたいと願っております。引き続きご支援ご協力賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

限られた時間ではありますが、最後までお付き合いいただきたく、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

第18回安全工学会総会
2022年度・2023年度会長挨拶

武藤 潤

皆さんこんにちは。先ほどの第306回の理事会で、安全工学会の会長に就任することを承認されました、鹿島石油の武藤でございます。

ただいま一言ご挨拶申し上げます。まずは、この2年間、安全工学会の活動を、このコロナ禍の大変な中で引っ張って来られた三宅先生に、改めて御礼申し上げたいと思います。また事務局の皆さん、本当にありがとうございました。

さてこれからのことでございます。先ほど第3号議案の中でいくつかの事業活動方針が説明されましたが、非常に壮大なものが入っております。安全工学会がまさに社会にとって必要なのだということ、より発信していくために、どういうことをしていこうかという話が大体入っているのですが、ただあれだけを見ても、具体的にどうしようかという話はこれからの部分もでございます。安全工学会の定款そして目的に沿って、社会にとって、産業界にとって、そして一人一人にとって、実り多い活動にしていきたいと思っております。理事の皆様、そして会員の皆様にご支援とご協力をお願いして、私の挨拶とさせていただきます。これからよろしくお願いたします。